

第3回第3次行政改革大綱策定検討部会会議録【概要】

(以下、敬称略)

【日 時】 令和元年10月21日(月)午後1時30分～3時30分

【場 所】 市役所303会議室

【出席委員】 6名(小竹、大平、小坂、田島、武井、石井)

【欠席部会員】 無し

【事務局】 2名(企画課長、担当職員1名)

【配付資料】

会議次第

資料1 第3次行政改革大綱(たたき台④)

資料2 第3次大綱たたき台 変更点まとめ

資料3 部委員からご意見

資料4 市勢要覧2019

前回審議会会議録

【詳 細】

1 開会 《企画課長》

2 部会長挨拶

【部会長より挨拶】

3 協議事項

(1) 第3次行政改革大綱について [資料1、2、3]

<説明>事務局

第3次行政改革大綱(たたき台)について

I 策定の趣旨について

◆1頁

➤ 「(1)「総働」の実現に向けた行政改革」に、「総働」の主体として公共的団体の具体例を追加した。

II 行政改革推進項目について

◆11頁

➤ 「1 市民ニーズの把握と「総働」の前文の表現を修正した。

➤ 「(1) 市民にとってわかりやすい形での情報の提供等」に政策課題の整理と市民への情報提供について追加した。

➤ 「(2) 市民ニーズを間断なく把握」の「専従窓口」を削除し、表現を修正した。

◆12頁

- 「(3) 市民が意見のしがいのある行政をめざして」のタイトルを「(3) 市民の意見をしっかり受け止められる行政をめざして」に変更した。
- 「(4) 市民のやりがいと市民力を引き出す仕組み作り」に退職者の力の活用方法の具体例を追加した。中間組織を中間支援組織に変更した。

◆ 13頁

- 「2 職員の資質向上と人事制度」の前文に国からの補助金、パイロット事業に対応できる人材の育成、研修の機会を増やすことについて追加した。
- 「(2) 既得権益にも対抗できるしっかりとした職員の育成」の「分析力」がどういったことを指しているのか分かるように表現を修正した。

◆ 21頁

- 「用語解説」に中間支援組織を追加した。

部委員からご意見について

◆ 4頁

- 「人口が 35,000 人を超すこと」の「超すこと」という表現が分かりにくい。これから人口を増やしていき 35,000 人を「超す」という意味に取られてしまう。

<審議>

● 人口ビジョンの表現をそのまま引用している。
◇ 「超すこと」を「下回らないこと」に変更する。

◆ 12頁

- 「役所のカウンターの外で」という表現がどこいったことを指しているのか分からない。役所の外で O B の立場から行政手続きの所管部署を教えるといったことを指すのか。それとも、役所の中の例えば総合案内（カウンターの外）に O B を配置して案内役とするといったことを指すのか。

<審議>

◇ 庁舎内に配置するというイメージ。「庁舎内で」という表現に修正する。
◇ 「年長者」というよりも「経験豊かな」という表現がよい。また、「(3) 市民の意見をしっかり受け止められる行政をめざして」の 1 行目で「市民が意見しても」よりは「市民が意見を出しても」に変更した方がよい。

◆ 13頁

- 「このように、国から人員削減を求められる中」となっているが、前の文章に国からの人員削減について述べている文章が無い。

<審議>

◇ 「このように、国から人員削減を求められる中」を削除し、「一人一人の資質をさらに向上する」を「一人一人の資質、生産性をさらに向上する」に変更する案でどうか。表現を検討する。

◆ 16頁

➤ 「補助金は一定の期間が経過したらゼロベースで見直すというサンセット方式を採用することが必要です。」について、様々な補助金がある中で、市として続けていかなければならない補助金もある。すべての補助金をゼロベースで見直すことは難しいのではないか。

<審議>

◇ 「サンセット方式」の用語解説を追加する。
◇ 既存の補助金の中で、行政ができないことを外部に委託する意味合いの補助金も一定の期間が過ぎるとサンセット方式で終了するという点では少し乱暴な気がする。補助金の内容等を考慮するような表現を入れたほうがよい。
◇ 一定の期間でという部分が機械的に判断するような印象を与える。
● 一定期間経過したら必ず補助金を廃止するという点ではなく、ゼロベースで見直すという意味合い。
◇ 「見直すことも必要です」といったように含みを持たせた方がよい。「一定の期間」を「相当の期間」にするのはどうか。
◇ 文案を各部会員から事務局に提示してもらいたい。

たたき台全般について

<審議>

◇ 14頁から審議を行いたい。
◇ 安中市は行政評価に積極的に取り組んできた。これまでの経緯と今後も行政評価を改善、継続していくことを書いてもよいのではないか。
◇ 行政評価について、「(1)進捗管理とPDCAサイクル」、「(4)機動性のある行政運営」のどちらかに追加したい。
◇ 「(4)機動性のある行政運営」で、「市民にとって本当に必要なサービスを見極め」とあるが、そもそも不要なサービスがあるのか。表現が少し気になる。
● 慣例でただただ継続しているような事業も存在する可能性があり、市民に真に必要とされるものなのか見極めていかなければならないという考えから追加した文章。
◇ 「選択と集中」の前に「行政評価の結果を踏まえ」と入れてはどうか。
◇ 「本当に必要なサービス」がなにを指しているのか分かりにくい。「必要なのか、慣性により出されたサービス」に変更したい。 続いて16頁について審議を行う。

<p>◇ 財政面では、中長期的な財政計画を作成し、財政が厳しいことを公表し、健全化に向けて市民に協力を求めることが重要。受益者が増え、負担者が減っていく状況の中で、行政サービスを惰性で続けていくわけにはいかない。そのために、財政状況を市民にしっかりと説明していく必要がある。漠然とした財政の展望ではなく、もう少し細かい財政運営計画のようなものを5年程度の周期で作成すべき。このことについて「4 健全な財政運営」の前文に追記してもらいたい。</p> <p>碓氷病院の経営の健全化も必要。</p>
<p>● 9頁「(4) 財政状況」に病院事業会計負担金の高止まりが課題となっていることを追加しているが、行政改革推進項目で碓氷病院について具体的に記述していただいても問題はない。</p>
<p>◇ 第三セクターはどういったものがあるのか。</p>
<p>● 碓氷峠交流記念財団がある。</p>
<p>◇ 17頁について審議を行う。</p>
<p>◇ 「(2) 市民サービス向上のためのICT利活用の推進」に、福祉サービスの提供(高齢者の在宅医療など)、災害の防止に積極的に活用すること、情報弱者への配慮について追加した方がよい。市民の日常生活の中で具体的に利便性が向上することを記述してもらいたい。</p>
<p>◇ 行政と民間の間での情報の集約にICTを活用してもらいたい。例えば、行政が持っている観光情報、イベント情報を観光機構に提供してもらおうといったことが考えられる。情報の展開、更新は民間の方がやりやすい面もある。</p>
<p>◇ 「(2) 市民サービス向上のためのICT利活用の推進」が窓口サービスに限定されている印象はある。申請や届出だけでなく分野を拡大させて記述した方がよい。文案を検討する。</p>
<p>◇ 市では平日の日中に問合せできない人のためにメールで問合せを受け付けるようなことはしているのか。</p>
<p>● メールでの問合せ受付はすでに行っている。AIで問合せに回答するような方法も今後検討を進めたい。</p>
<p>◇ 行政区改革について文案を作成するので「3 効率的・弾力的かつ機動性のある組織の整備」に追加してもらいたい。</p>
<p>◇ 行政区改革については、本文ではなく、別コーナーを設けるようなことも可能か。</p>
<p>● 大綱の本文ではなく実施計画に載せるという方法もある。別コーナーを設けることも問題はない。</p>
<p>◇ 行政区改革の文案を大平委員に提出してもらい、どのように大綱に反映させるか検討したい。</p>
<p>◇ 18頁の「Ⅲ 推進方法」について検討したい。</p> <p>公表はどのように行っているか。</p>

● 進捗状況の一覧を公表している。
◇ 進行管理について審議会への報告する周期を明記してもよいかもしれない。

(2) 今後の予定について

- 第4回部会は、11月12日（火）9：30から開催する。
- 次回はたたき台全体をもう一度見直し、部会としての素案を完成させたい。

4 その他

- 特になし。

5 閉会